

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：14202

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22592369

研究課題名(和文)倫理的問題解決能力測定尺度と能力育成CAI教材の開発

研究課題名(英文)An Exploitation of the scale of the ability for ethical problems and CAI materials.

研究代表者

足立 みゆき (Miyuki, Adachi)

滋賀医科大学・医学部・教授

研究者番号：20263494

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：医療の質向上に対する国民のニーズは多岐にわたるが、その中でも、医療者の倫理的感受性や判断能力には高い関心が向けられている。そこで、看護師の倫理的感受性の向上を目的とした判断能力測定尺度とCAI教材の開発を試みた。尺度については完成度を高めるための検証を行っているところである。また、CAI教材に関しては倫理的感受性の形成プロセスを内容に反映させコンテンツを精選し、完成度に努めた。

研究成果の概要(英文)：Japanese people seek for high quality medical care. Especially, they are interested in ethical sensitivity and ethical problem resolving ability more and more. So, we tried to make scale of ethical abilities and CAI materials. The making scale level is still verification stage. And CAI materials is same phase too.

研究分野：看護倫理

キーワード：看護倫理 倫理的感受性 CAI教材

1. 研究開始当初の背景

看護倫理に強い関心をもっており、臨床において、「看護師が直面する倫理的問題」「臨床看護師の倫理教育」などの研究を継続してきた。看護基礎教育課程における倫理的感受性の発達についても関心をもってきた。そこで、看護師の倫理的感受性(倫理問題を見極める能力)に関するインタビュー内容を質的に分析し、倫理的感受性測定尺度案を作成した。また、看護師が倫理的意思決定をすることにどのような倫理原則が選好要因となっているのか調査を行った。こうした研究プロセスを経て、看護師の倫理的意思決定には様々な因子が関連していることが明らかになった。特に、日々のケアや職務を遂行する中で倫理的問題についてのアドバイスを得る、ディスカッションするといった教育機会の有無は倫理的意思決定能力を向上させる上で非常に重要であることが明らかとなった。

一方で、学部課程における倫理教育については米国ミネソタ大学が MCSL(Multi-Course Learning)という倫理教育プログラムを先駆的に開発している(手島,1998)。我が国においてもカリキュラムの中に科目として看護倫理を導入するなど様々な試みはなされているが、実際に臨床で生じている倫理的問題に対してどのように対処できるのかといった実践能力を育成に直接結びつくような教育方法や教材が開発されていないのが現状である(手島,2006;習田・志自岐,2005;大日向・稲葉,2005)。

従来研究成果をもとに、看護師の倫理的感受性の向上に向けての教材の開発を試みることにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護師の倫理的意思決定能力を向上させるための方法として CAI 教材を開発することである。

(1)臨床で多く遭遇する倫理的問題に関する

事例を作成する。

2)上記の事例をもとに、個人の倫理的意思決定プロセスを反映するCAI教材を開発する。

3)作成した教材を学習教材として活用し、その効果を今までの科研成果をもとに評価する。

3. 研究の方法

1)日本と諸外国における倫理教育に関する研究動向を探り基礎的資料を得る。

(2)実際に臨床で生じている倫理的問題に関する情報を収集する。

(3)米国の看護師が直面する倫理的場面とその対処方法について情報収集を行なう。

(4)上記データを踏まえ、教育目標・内容を精選し設定する。

(5)CAI教材のコースウェアを作成する。
検討した教育内容を具体化する。
開発するシステムに関する検討を行なう。

(6)システム開発を行なう。
研究代表者と研究分担者が中心となりシステム開発作業を行なう。

(7)パイロットスタディを実施し、必要時教材内容を修正し改善する。

(8)開発した CAI 教材を長期的に活用し評価する。

(9)研究成果を公表する。

4. 研究成果

本研究は、倫理的問題解決能力測定尺度と倫理的感受性及び倫理的問題解決能力の向上を目指した CAI 教材を開発することを目的としている。そのため、看護師一人一人の問題解決能力を客観的に評価するための倫理的問題解決能力測定尺度の開発と教育プログラムの一環として、実践的状况を織り込んだ CAI 教材

を開発に主に取り組んだ。

(1) 日本と諸外国における倫理教育に関する研究動向調査

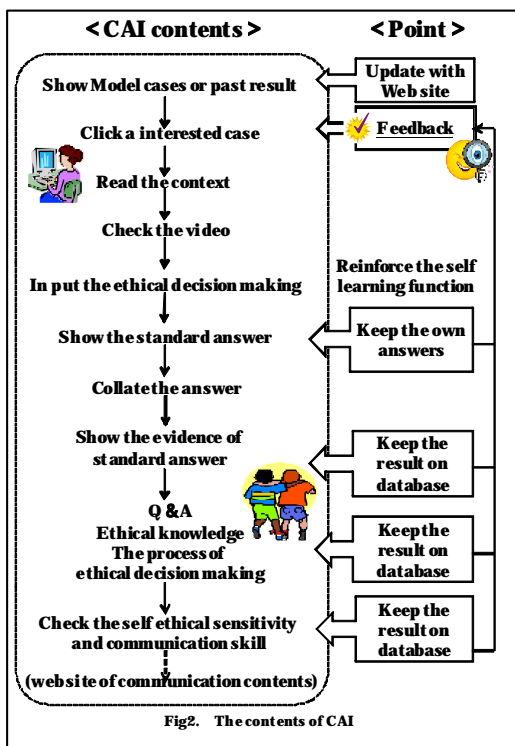
看護師の倫理的問題解決能力に関する国内外の文献を収集し、その構成要素等を研究分担者とともに分析した。また、倫理的問題解決能力に影響を及ぼすと考えられるクリティカル・シンキングおよびEQに関する文献についても相互の関係性を中心に検討を行った。この結果は、倫理的意識決に関する質問紙に反映させた。また、既存の「看護問題対応行動自己評価尺度」その関係性についても検討した。

(2) 臨床看護師の倫理的問題への対応の現状および倫理的問題に関する情報収集

研究協力者に上記に関するインタビューを行い、臨床看護師が対応する、あるいは対応してきた倫理的問題の対象や解決方法は様々であることが確認できた。ここで得られた内容をもとに、CAI教材の設定状況とコンテンツ案を検討した。

(3) 臨床看護師への面接調査資料の作成

(1)(2)を参考に、臨床看護師の倫理的問題解決能力に関する面接用資料案を作



成し、検討した。

3)米国の看護師が直面する倫理的場面とその対処方法について情報収集を行なった。

4) CAI教材のコースウェアの検討を行った(図1)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)

[学会発表](計 2 件)

(1)Miyuki Adachi, , Yoko Muranaka , Ikuko Miyabayashi , Akiko Watanabe , Kazumi Imura : A Consideratin of Making Case Improve the Ethical Sensitivity , The 16th Asian Forum of Nursing(EAFONS) , Bangkok , 2013

2) M. Adachi, Y. Muranaka, I. Miyabayashi,,A. Watanabe, K. Imura, : The Consideration of Computer-assisted instruction (CAI) application to improve the ethical Sensitivity of nursing Students , 11th International Congress on Nursing Informatics. Montreal, June, 2012.

[図書](計 0 件)

[産業財産権] 出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他] ホームページ等 無し

6. 研究組織

(1)研究代表者
足立 みゆき (Miyuki Adachi)
滋賀医科大学・医学部・教授
研究者番号：20263494

(2)研究分担者
渡邊 亜紀子 (Akiko Watanabe)
日本福祉大学・看護学部・准教授
研究者番号：00362153

村中 陽子 (Yoko Muranaka)
順天堂大学・医療看護学部・教授
研究者番号：30132195

井村 香積 (Kazumi Imura)
三重大学・医学部・准教授
研究者番号：00362343

宮林 郁子 (Ikuko Miyabayashi)
福岡大学・医学部・教授
研究者番号：40294334